

第4章 西東京市の関連文化財群と今後の文化財保存・活用の考え方

1 西東京市の関連文化財群等のとらえ方

市民意識調査の結果からは、文化財に対する興味やその重要性についての意識の高さに比べ、文化財やそれらに関連する事業、施設等の認知度が低いことがわかります。

そこで、本計画では、歴史文化をより身近に感じ、文化財等の認知度を高めることを目的として、第1章に述べたように、一定のまとまりをもつ「関連文化財群」と、そのつながりによってわかりやすく本市の歴史文化を示す「ストーリー」を示します。

文化財をこのように単体ではなく総合的にとらえることは、本市の歴史文化の理解を深めることに役立つばかりでなく、市内で文化財の保存・活用に関わっている個人や団体が、専門分野を超えて共通の認識を持つことにつながり、活動の連携等、より効果的な文化財の保存・活用の推進が期待できます。

歴史文化は、周辺環境を含め、多様な文化財を要素とする多面的なものであり、関連文化財群及びストーリーはそのとらえ方によって複数考えられます。

本計画では、以下の通り、重視した視点が異なる6つのストーリーを例示します。

<ストーリーの例>

特定の文化財を重視したストーリー (①)

地域を重視したストーリー (③)

時代を重視したストーリー (⑤)

地域や時代を超え、物語を重視したストーリー (②、④、⑥)

今後、本計画の取組を通して、文化財の認知度が高まり、人々の中から新たな関連文化財群やストーリーの検討がなされることが期待されます。

また、関連文化財群やストーリーを生かすため具体的に、関連文化財群をつなぐ散策ルートを示した文化財マップやストーリーを語る副読本の作成、地域の特色ある自然的・歴史的な景観の保全と魅力ある景観形成の推進、未指定の文化財を含め、幅広く文化財を把握し保存・活用するための登録文化財制度の導入検討に取り組みます。

(1) 西東京市の歴史文化の特性の要素

次の表は、本市の歴史文化の特性を時代の流れに沿って見た際のキーワードの例です。これらのキーワードに関連する文化財を関連文化財群としてまとめて、歴史文化として考えられるストーリーの例として紹介します。関連文化財群のストーリーやその構成要素等は今後、本計画の取組を実施する中でさらに検討を進めていきます。

時代		特性・出来事	関連						
原始・古代・中世	旧石器	白子川・石神井川流域における第一歩	●						
	縄文	自然と共生した縄文人の暮らし	●						
	弥生 ～平安	(歴史の不詳期間) 山林原野の広がり		●					
	鎌倉 ～室町	水辺における初期集落の出現		●		●			
近世	江戸	青梅街道の開設と田無宿のにぎわい		●	●				
		江戸近郊の薪炭林・雑木林の始まり		●					
		幕領とお鷹場による二重支配		●					
		上水の開削と新田開発		●	●	●			
		江戸近郊農村としての発展		●	●			●	
		多彩な民俗と信仰		●		●		●	
		幕府代官の支配と改革組合村		●		●		●	
	(幕末)	幕末期の混乱及び戊辰の動乱				●	●	●	
近代・現代	明治	新政と社会問題				●	●		
		学制・教育令下の初等教育のはじまり				●	●	●	
		維新政府の宗教統制と庶民の信仰		●		●		●	
	大正	武蔵野鉄道の開通			●		●	●	
		明治の俳諧から大正の『むさしの文芸』へ					●	●	
	昭和	文化住宅地の開発					●	●	
		教育機関等の誘致					●	●	
		軍需工場の進出と空襲					●	●	
		戦後の工場進出とベッドタウン化					●	●	
		都市農業への転換					●	●	
	文化人の活躍					●	●		

(要素の例)

↓
下野谷遺跡

↓
水と集落

↓
旅と物流

↓
祈りと誇り
村の

↓
近代化

↓
文化・文学

(2) 西東京市の関連文化財群の例

前述のような本市に見られる歴史文化の特性の要素から考えると、関連文化財群のストーリーの例として次の6つのストーリーが考えられます。それぞれのストーリーは、文化財が現代の私たちの生活に息づいていることを示しています。

① 武蔵野台地を拓いた人々 縄文人のふるさと「下野谷」の物語	
<p>(内容)</p> <p>市内で確認できる最古の人々の営みは4万年前の旧石器時代で、白子川、石神井川流域に最初の一步が刻まれています。その後、4～5千年前に、武蔵野台地の自然を切り開き、水・土とともに千年もの長期にわたり下野谷(したのや)ムラに暮らした縄文人の「ふるさと」の物語があります。南関東最大級の縄文時代中期の遺跡であり、大規模集落に見られる特徴である「<small>そうかんじょう</small>双環状集落」が存在し、河川に囲まれた自然環境での暮らしや、広範囲での交流が存在します。</p> <p>縄文時代後期になり、環境や生業、社会の変化により、下野谷遺跡から人々は去っていきますが、彼らの暮らした石神井川の景観は残され、中世以降、再び集落ができると、市域では数少ない水田がつけられます。</p> <p>現在では、早稲田大学のグラウンドや都立公園に隣接する駅近くの市街地ですが、足元には縄文人のふるさとが今も残されており、下野谷遺跡公園等を活用したイベントには多くの人が集まります。</p> <p>また、石神井川の遊歩道も整備され、水とみどりと歴史が息づいています。</p>	<p>(要素の例)</p> <p>石神井川・白子川 下野谷遺跡、その他市内 13 遺跡 出土遺物(土器、石器等)</p>
<p>(関連する小ストーリー・人物・事件等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○縄文時代の集落の営みと優れた生活技術、芸術 ○自然と共存した生活 ○河川等を利用した広い交易ネットワーク ○石神井川の昔と現在の姿 	 <p>縄文土器出土状況 (下野谷遺跡)</p>

②水と集落 土に生きる近郊農村の物語	
<p>(内容)</p> <p>本市の中世の記録は乏しいところですが、初期集落は鎌倉～室町時代にできたことが、谷戸地域(上宿)で見えられた「延慶の板碑」により立証されています。市域にいくつか認められる初期集落は、いずれも石神井川や白子川、新川(旧・白子川)の源流域となる地下水堆付近に形成されており、水との関係が注目されます。その後は江戸初期の武蔵野の薪炭林、近郊農村としての集落が形成されました(武蔵野の新田開発)。尾張徳川家の鷹場になった時期もあります。</p> <p>また、玉川上水や千川上水の開削、当初は田無宿の飲み水確保のために玉川上水から分水された田無用水の開削は、新田開発や水車を利用した麦等の製粉を盛んにし、地域での営み、そして江戸の食文化を支えてきました。中には、雑穀・粉商売で武蔵野の中心的な豪農となり、田無村の名主を後々まで務めた下田半兵衛家の存在もあります。</p> <p>強い風や土埃をよけ、薪炭材を得るため、家屋の周りには屋敷林が形成されました。幕府も江戸住民のための建築材や薪炭を得るため植樹を行い、「武蔵野」の景観が形成されました。</p> <p>明治以降は、製茶や製藍、養蚕も盛んでした。そのような武蔵野の農村の姿から、戦後の農地改革、都市化の進展を経て、都市農業が営まれる風景へ移り変わり、本市の現代の姿となっています。</p>	<p>(要素の例)</p> <p>延慶の板碑 上宿地下水堆 又六地下水堆 西原自然公園、保谷北町緑地保全地域、碧山森緑地保全地域等に代表される雑木林 下保谷四丁目特別緑地保全地区等に代表される屋敷林 小金井サクラ並木 石製尾張藩御鷹場標杭 玉川上水、千川上水 田無用水、田柄用水等の用水 ふれあいのこみち やすらぎのこみち 水車の部材 下田半兵衛 稗倉 養老田碑・養老畑碑 下田家文書 下田半兵衛富宅の木像</p>
<p>(関連する小ストーリー・人物・事件等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○武蔵野の景観変化と緑地保全 ○江戸近郊農村の開発と「字」に見られる名残 ○田無用水開削に伴う水車稼ぎと江戸期の食文化 ○近郊農村の経済とくらし ○田無村名主・下田半兵衛家と稗倉、養老畑 	



市指定文化財第9号
 「下田半兵衛富宅の木像(附 厨子)」

③町場と生産場をつなぐ大動脈 旅と物流の舞台「青梅街道」の物語	
<p>(内容)</p> <p>江戸城の大修理に伴う、漆喰<small>しじくい</small>の材料である石灰の輸送を契機に「青梅街道」が開かれ、輸送や旅行者の休泊のための人馬<small>じんば</small>継ぎ立<small>つた</small>ての場として「田無宿」が成立しました。その後、石灰陸送は衰退し、代わりに江戸への生産物の輸送や人々の往来で賑わい、武蔵野の中心地として栄えた歴史があります。明治期には郵便輸送路としても利用され、経済は急拡大しました。新河岸川<small>しんがしがわ</small>を通る舟便の利用拡大や、その後の鉄道開通による輸送路変化の打撃を受けましたが、戦後の高度経済成長期の車両交通の増加、新青梅街道の開通を経て、現在のまちの発展に貢献しています。</p> <p>現代、青梅街道沿いには社寺や古い民家が残り、江戸の物流の一面を担い、にぎわった町場の歴史文化が今も息づいています。</p>	<p>(要素の例)</p> <p>青梅街道・横山道等の街道 田無宿(柳沢宿) 柳沢庚申塔 文化九年検地図 田無村御検地帳 人馬賃銭御定メ掛札(継馬) 高札(火付ヶ御文言高札) 武蔵野鉄道(現・西武池袋線) 西武鉄道(現・西武新宿線) 旧下田名主役宅 田無神社 総持寺 観音寺</p>
<p>(関連する小ストーリー・人物・事件等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○青梅街道の物流と田無宿のにぎわい ○甲州街道<small>わきおうかん</small>の脇往還(バイパス)としての道路ネットワーク ○農村への遊覧としての道 	



撮影：西濱 剛
都指定文化財
「田無神社本殿」



市指定文化財
第28号
「柳沢庚申塔」



市指定文化財 29号
「旧下田名主役宅」(昭和40年頃)

④村の祈りと誇り

(内容)

本市には中世の文字記録がほとんどありませんが、「延慶の板碑」が、阿弥陀信仰をもつ人々が暮らしていたことを語っています。また、下保谷地域からは日蓮宗信仰に伴う文字板碑が見つかっています。このような板碑群からは、地域の結びつきを知ることができ、最近消滅した「南入経塚」を境に、上保谷の密教系仏教、下保谷の日蓮宗等を信仰する地域に分かれていたことがわかります。また、村落の形成とともに、富士講や御嶽講等、様々な信仰が取り結ぶ組織「講」も存在しました。また、寺院や神社も人々の信仰を集めてきました。明治維新政府の宗教統制政策により、下保谷村鎮守の三十番神は禁止令を受けるなどしましたが、関連する文化財は現在も大切に引き継がれています。同じように、榛名大権現(現・氷川神社)も尉殿神社への合祀を指示されましたが、10 数年にわたって抵抗を続けるなど、人々は信仰を大切に受け継ぎました。

田無村では代々の名主下田半兵衛を中心に文化や互助に優れたまちづくりが行われました。下田半兵衛富永の庇護をうけた医師・賀陽玄雪・玄順親子は、医療活動とともに文化面でも活躍しました。また、田無神社の本殿の改修には、江戸の名工・嶋村俊表が招聘されました。

また、村民の名前を刻んだ庚申塔や、明治初期に、凶作に備えた貯穀制度に対する出穀軽減の要求をした「御門訴事件」に関わった村人を顕彰する招魂塔等、村人の結束と祈り、誇りを示す文化財も多く残っています。

これらの祈りの風景は社寺で行われる年中行事等に引き継がれ、地域のつながりを保ち、現代生活に潤いを与えてくれています。

(関連する小ストーリー・人物・事件等)

- 御嶽山、榛名山、富士塚等の信仰
- 三十番神の改宗、天神社への改号
- 榛名神社の合祀反対運動と鳥居奪還・再興
- 御門訴事件

(要素の例)

延慶の板碑
下保谷の板碑群
現・氷川神社の鳥居
榛名大権現石造物群
馬駆け市大絵馬
南入経塚(経塚伝承)
田無神社、野分初稲荷、天神社、阿波洲神社、尉殿神社、白山社 等
福泉寺、四軒寺(東禅寺、寶晃院、如意輪寺、寶樹院)、観音寺、西光寺(現・総持寺)、持宝院 等
三十番神信仰
御嶽山、榛名山信仰等の講
富士塚
石幢六角地藏尊、文字庚申塔、北芝久保庚申塔、南芝久保庚申塔、六角地藏石幢、水子地藏菩薩立像、西浦地藏尊、岩船地藏尊 等
十王堂一字建立の碑、又六石仏群
撃剣家並木先生の墓
田無ばやし・保谷囃子、獅子頭
養老田碑・養老畑碑
蓮見家文書・下田家文書
招魂塔
賀陽玄雪・玄順親子



市指定文化財第 30 号
「木彫彩色三十番神神像(附 厨子)」

⑤近代化するまちと産業と暮らし

(内容)

大正期の武蔵野鉄道(現・西武池袋線)と昭和初期の西武鉄道(現・西武新宿線)の開通による開発で、現在の町の姿へと近づいてきます。鉄道沿線の新興住宅地開発に文化的な雰囲気をもたらそうとした「文化住宅地」が造成され、同時に教育機関及びその関連施設の誘致が進み、現在市内に立地する大学施設の原型が形づくられました。また、京都の伏見稲荷大社から分祀され東伏見稲荷神社が勧請されています。

その後は、日中戦争以降の軍需工場の進出で、当時国内最大級の中島飛行機の各種工場や関連下請工場が次々とつくられ、社宅や独身寮もできました。そのことによって、第二次世界大戦末期の空襲を受けることとなり、空襲では、学徒勤労動員中の女学生や、田無駅前の人々等多くの犠牲者がでました。

戦後の高度経済成長期では、石川島重工株式会社(現・株式会社 IHI)等が操業を開始しています。また、農村から都市への大規模な人口移動により、人口が急増した時期です。そのための住宅建設としてひばりが丘団地等の大規模団地建設や宅地・マンションの分譲も進み、農地の転用を伴う商業地の拡大・分散化により、現在の地域が形成されるに至っています。

(要素の例)

武蔵野鉄道・西武鉄道
保谷文化住宅地、
長者園文化住宅地
小宮家住宅(遠藤新の建築)
東京帝国大学農学部附属農場(現・東大生態調和農学機構)等の教育機関
東伏見稲荷神社
住友重機械工業(株)田無製造所(中島飛行機田無試運転工場・中島飛行機金属田無製造所)等の工場
引込線用のガード
しじゅうから第二公園付近(原爆模擬爆弾の被害)
平和のリング(田無駅前の空襲)
散華乙女の碑、和楽地藏菩薩立像、
戦災者慰霊塔等の慰霊碑
青面金剛庚申像等被災文化財
東京大学原子核研究所(現・いこいの森公園)
通商産業省工業技術院電子技術総合研究所田無分室(現・都立田無高等学校、現・向台運動場、現・市民公園グラウンド)
ひばりが丘団地 等

(関連する小ストーリー・人物・事件等)

- 軍需工場の進出
- 空襲被害(田無駅前、散華乙女の碑、原爆模擬爆弾)
- 高度経済成長期の工場進出と大規模団地開発



「散華乙女の碑」

⑥武蔵野の人々の学問・文化・文学

(内容)

江戸時代末期、本市の地域にも「寺子屋」と呼ばれる初等教育施設が存在しており、子どもたちへの読み・書き、そろばん等が、僧侶等により教えられていたようです。明治期に入ると、学制による「真誠学舎(現・田無小学校)」や「上保谷学校(現・保谷小学校)」「芳谷学校(現・保谷第一小学校)」が設置され、学びの場は学校へと移り、現在の小学校へとつながっています。また、江戸期からの俳人仲間や、大正デモクラシーの波による「むさしの文芸」が興った歴史もあります。

昭和初期には保谷村に渋沢敬三、高橋文太郎らにより日本最初の野外博物館でもある「民族学博物館(日本民族学会附属研究所・博物館)」が開設され、民族学の拠点となりました。しかし、現在は閉館し、収蔵資料は、国立民族学博物館(みんぱく)へ移りました。他方、大正から昭和初期にかけての自由学園による住宅開発での著名な建築家の設計した住宅も存在する等、市内に息づいた学問・文学・文化の香りを今も感じることができます。

(要素の例)

真誠学舎(現・田無小学校)・
上保谷学校(現・保谷小学校)・
芳谷学校(現・保谷第一小学校)
田無連(俳人仲間)・文芸雑誌『むさしの文芸』
小宮家住宅(遠藤新の建築、自由学園界限)
日本民族学会附属研究所・博物館
詩碑 釈迢空(折口信夫)「田無の道」

(関連する小ストーリー・人物・事件等)

- 寺子屋から学校、小学校への人々の学びの変遷
- 俳人社会や武蔵野文芸会
- 日本最初の野外博物館「民族学博物館」(渋沢敬三、高橋文太郎、今和次郎、宮本馨太郎)



かつて保谷にあった「民族学博物館」
(西東京市中央図書館所蔵写真)



市民ボランティア作成の復元ジオラマ

関連文化財群①

武蔵野台地を拓いた人々



関連する文化財

▼ (遺跡)

- 1 北宮ノ脇遺跡
- 2 上前遺跡
- 3 中荒屋敷遺跡
- 5 南入経塚
- 7 下野谷遺跡
- 8 坂下遺跡
- 9 上保谷上宿遺跡
- 10 東伏見稻荷神社遺跡
- 11 下柳沢遺跡
- 12 上向台北遺跡
- 13 下宿遺跡
- 14 下宿南遺跡
- 15 上向台西遺跡
- 16 田無南町遺跡

関連文化財群③

町場と生産場をつなぐ大動脈



関連する文化財

◇ (市指定文化財)

- 11 高札
- 12 人馬賃銭御定メ掛札
- 19 文化九年検地図
- 25 田無村御検地帳
- 28 柳沢庚申塔
- 29 旧下田名主役宅

関連文化財群

②水と集落

④村の祈りと誇り

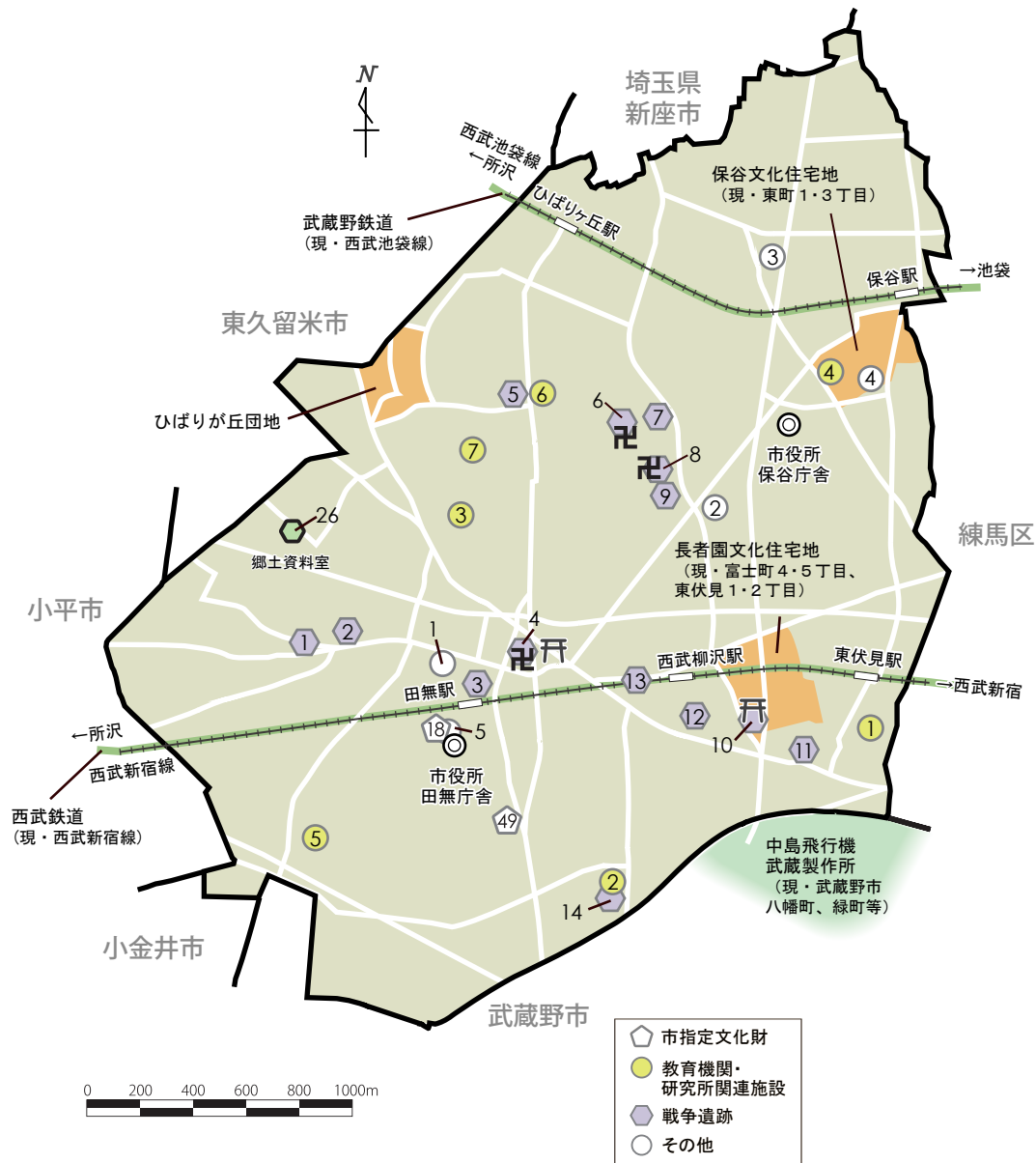


関連する文化財

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|--------------------------------------|
| <p>■ (遺跡)</p> <p>5 南入経塚</p> | <p>◇ (都・市指定文化財)</p> <p>1 石幢六角地藏尊
2 田無ばやし
3 延慶の板碑
4 神倉
5 下田家文書
6 北芝久保庚申塔
7 養老田碑
8 養老畑碑
9 下田半兵衛富宅の木像
10 獅子頭
13 葦山笠
14 十玉堂一宇建立の碑
15 玉井寛海法士の墓
16 撃剣家並木先生の墓
17 南芝久保庚申塔
18 地租改正絵図</p> | <p>◇ (都・市指定文化財)</p> <p>20 文字庚申塔
21 招魂塔
22 六角地藏石幢
23 青面金剛庚申像
24 又六石仏群
25 田無村御検地帳
27 尉殿大権現 神号額
29 旧下田名主役宅
30 木彫彩色三十番神神像
31 木彫彩色俱利迦羅不動明王像
32 石製尾張藩鷹場標杭
33 総持寺のケヤキ
34 田無神社のイチョウ
35 水子地藏菩薩立像
36 西浦地藏尊
37 六地藏菩薩立像</p> | <p>◇ (国指定文化財)</p> <p>38 榛名大権現石造物群
39 石燈籠一对
40 奉納絵馬群
41 一文銭向い目絵馬二枚
42 菅原道真石像
43 観音寺の宝篋印塔
44 馬駆け市大絵馬
45 氏子中奉納題目塔二基
46 保谷囃子
47 岩船地藏尊
48 蓮見家文書
都 田無神社本殿・拝殿
※ 46 は図になし</p> | <p>■ (国登録文化財)</p> <p>国登1 田無神社参集殿</p> |
|-----------------------------|---|---|---|--------------------------------------|

関連文化財群

- ⑤近代化するまちと産業と暮らし
- ⑥武蔵野の人々の学問・文化・文学



関連する文化財

- | | | | |
|---|--|--|---|
| <p>○ (市指定文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> 18 地租改正絵図 26 真誠学舎関係文書 49 幕末の洋式小銃 <p>■ (国登録文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国登2 小宮家住宅主屋 ※国登2は図になし | <p>● (教育機関・研究所関連施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 早稲田大学総合運動場
(現・早稲田大学東伏見キャンパス総合グラウンド) 2 武蔵野女子学院
(現・武蔵野大学) 3 東京帝国大学農学部附属農場
(現・東大生態調和農学機構) 4 東京文理科大学・東京高等師範学校の附属農場・グラウンド
(現・文理台公園) 5 通商産業省工業技術院電子技術総合研究所田無分室
(現・都立田無高等学校、現・向台運動場、現・市民公園グラウンド) 6 東京女子薬学専門学校
(現・谷戸せせらぎ公園) 7 東京大学原子核研究所
(現・いこいの森公園) | <p>⊕ (戦争遺跡)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 交通安全地蔵 2 被爆した柿の木 3 平和のリング 4 総持寺と戦災者慰霊塔 5 住友重機械工業(株)田無製造所 6 寶院と戦死者供養地蔵菩薩立像 7 如意輪寺と和楽地蔵菩薩立像 8 寶樹院と六体地蔵菩薩立像 9 青面金剛庚申像 10 東伏見稲荷神社 11 地蔵菩薩立像 12 しじゅうから第二公園 13 引き込み線用のガード 14 散華乙女の碑 | <p>○ (その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 真誠学舎 (現・田無小学校) 2 上保谷学校 (現・保谷小学校) 3 芳谷学校 (現・保谷第一小学校) 4 日本民族学会附属研究所・博物館 5 詩碑 釈迦空「田無の道」 |
|---|--|--|---|

(1) 西東京市の文化財保存・活用の基本理念

6つのストーリーで例示したように、本市には縄文時代以前から現代までつながる長く多様で豊かな歴史文化が息づいています。

古くは4万年前から人々が闊歩し、4～5千年前の縄文時代には関東有数の大集落が下野谷遺跡に現れます。その後、一定のいまだ不明確な期間を置きながら、地域ごとに様々な歴史文化が育まれてきました。縄文時代に地域の拠点となった下野谷遺跡に残る大集落、江戸の流通の一角を担った青梅街道と田無宿、日本初の野外博物館である民族学博物館、戦後の都市近郊の庶民生活を象徴するひばりが丘団地等、それぞれの時代に地域の歴史の要となる役割を担ってきましたが、現代ではそのことが見えにくくなっています。そのような貴重な歴史文化をここで再認識し、未来につなげていく必要性があります。今なお残る文化財は、地域の歴史文化を後世につなぐ貴重な財産であり、このことに重要な役割を持ちます。さらに、その価値は、より地域の魅力を引き出し、そこに住む人々のアイデンティティを形成し、西東京市の郷土意識の基盤となるものと考えられます。

武蔵野台地を拓き、豊かな生活を目指し、努力や工夫を重ね暮らしてきた人々の多様な歴史文化を知り、そこから学ぶことによって、その魅力や価値を自らや地域の誇りとし、「ふるさと」西東京市という意識に支えられた豊かで安定した現在の暮らしをより輝くものとするためには、歴史文化をつなぐ貴重な文化財を、その周辺環境も含め整備し、確実に保存することが重要です。

歴史文化の息づく街で一人一人が輝き、またまちの魅力を広く発信し、未来を創る子どもたちにも貴重な文化財を継承していくために、本市の文化財保存・活用の理念を以下のとおりに定めます。

**縄文から未来につなぐ文化財
守りはぐくむ、ふるさと西東京市**

(2) 西東京市の文化財保存・活用に関わる目標

本計画では、(1) で定めた理念に基づき、市域における文化財の現状とそれを取り巻く課題を踏まえて、他の行政分野の計画や施策と整合を図りつつ、今後の文化財保存・活用の基本的な目標を次のように整理し、この目標を達成するための施策を展開します。

目標1 西東京市の歴史文化を知る

文化財を認知し、調査・研究の視点により新たな価値づけを行う。

➡「施策の柱1 文化財の調査・研究」

目標2 西東京市の歴史文化を守る

文化財の持続可能な保存・活用に関する制度や周辺環境を整備する。

➡「施策の柱2 文化財の保存管理の推進」

➡「施策の柱4 文化財の保護環境の充実」

目標3 西東京市の歴史文化を伝え、未来につなぐ

文化財の魅力を広く市内外に発信し、将来にわたって全ての人々がその価値を享受できる環境を整える。

➡「施策の柱3 文化財の普及啓発及び活用の推進」

➡「施策の柱4 文化財の保護環境の充実」

目標4 文化財を、人をつなぎ、育てるまちづくりに活かす

文化財を活かして、多様なバックグラウンドを持つ人々をつなぎ、新しいふるさと意識を醸成する。

➡「施策の柱3 文化財の普及啓発及び活用の推進」

目標5 下野谷遺跡の計画的な保存・活用を行う

下野谷遺跡の保存・活用の取組を重点施策として位置付け、計画的に推進する。

➡「施策の柱5 下野谷遺跡の保存・活用」